

## 疎甲 1 2 1 の訳文

表題：ディフェンシンー GMO において防御不可能

親愛なる金川博士

アキコ・フリッドが日本のディフェンシン生成イネの栽培に対する懸念を表明したあなたの公開状へ私の目を留めさせてくれました。

私はあなたの公開状へ心からの支援を表明するために、またあなたが公開した批評をより深めていくことができるようにコミュニケーション手段を確立することができるかどうか確かめるために、この手紙を書いています。

私があるあなたに手紙を書くのに時間を要したのは、単に精神的な支持を送るよりもさらに役に立つものでありたいし、そうしようとディフェンシンについて調べてからと思ったからです。

私は、あなたの立場が全く孤立していると想像します。なぜなら私たちの同僚の非常に多くの人たちが資金調達やコネが危険にさらされるのを恐れて、知っていることを言えないでいるからです。

だから、まず第一に、あなたと、そしてあなたが理解したことを公共の利益のために発言するというあなたの勇気を賞賛させてください。

また、わたしは、あなたのメッセージが世界にとって非常に重要であると信じますので、あなたの声が世界中に聞き届けられるために、私に出来るとあなたが感じているどんな方法でもよいですから支援をしたいと思っています。

私はまだ十分に研究をしていませんが、しかし、ディフェンシンの高いレベルの発現を伴うイネを開発するというアイデアは狂気か道理に反した犯罪的なもの以外のなにものでもないことだとわかるのにそんなに時間はかからないでしょう。

あなたは非常に重要な考察を指摘しています。すなわち、生物学の基本原則からみて、遅かれ早かれ、いやおそらくまもなく、HIV ウィルスの抵抗が出現することがわかります。このことはこれまでは単に HIV 1 つだった問題が今後私たちは少なくとも2つの、HIV とディフェンシン生成イネという問題を抱えるということになるでしょう。

しかしながら、ディフェンシン生成イネのアイデアをもった人たちが応用化するのを止めさせなければならないというのは、さらにいくつかの他の理由があるように思えます。

ディフェンシンを過剰発現するイネが実際に土壤に植えられたとあなたから知らされて私は驚きました。

私がつい気がつく他の論点は、ごく簡単に申せば以下の通りです。ただし、これらを十

分研究した結果とは受け取らないでください。なぜならそれをするには十分な時間がとれなかったのです。

ディフェンシンは、その明白な機能の 1 つによって命名された、非常に緩く定義されたペプチドのグループに属するものです。それらが、通常の生理学上の環境の中で、人間やあるいは植物の中で、生態系の中で、そして人間環境の中で、どういう作用をするものなのか、実際のところ、私たちは知らないのです。

ペプチドの生産に伴って、人間の免疫反応を引き起こす危険は実際に確かなことで、アレルギー反応レベルに十分及び得るものです。

私は、このイネの開発者たちがこの問題を適切に調査したかどうか疑います。

植物の遺伝子操作は植物の遠縁交配に過激な変化をもたらします。

私は、実際の農地で生産する植物に彼らが導入した DNA がどのように移動するかを、このイネの開発者たちがチェックしたかどうか疑います。

彼らは、恐らく、収穫後に否応なしに残ることになるこぼれ種のことを考慮していません。

もうひとつのディフェンシンの機能は避妊です。(以下の添付の論評をご覧ください) イネの開発者たちが公の環境の中に持ち込もうとしているかもしれないものは、彼らも意図しなかった避妊のキャンペーンになるのかもしれない、それも、世界で最も重要な主食を食べることによって!

米国、ヨーロッパ、オーストラリアその他で多くの反対に対して議論されてきた遺伝子導入植物には、関連した全体の一連の問題があります。そして、これらの懸念はすべて等しくディフェンシン生成イネの場合にも当てはまります。

要約すると、ディフェンシン生成のイネの提案でさえ非常に危険な提案なのに、ましてや環境中にそのような生きた有機体を植えることは犯罪であるということです。

私は、日本の当局が明晰な精神と意志によってこの実験に終止符を打つことを強く期待したい、そしてまた、貴方が言うように、彼らが望むものならなんでも導入する権利があると信じている開発者に対し、公の開かれた環境ではない明快な境界線を当局が確立することを強く期待したい。

この提案のすぐれた分析は科学文献の中で公表されるべきだと私は思います。恐らく、この点に関して私たちは共同作業について考えるべきかもしれませんね?

もういちど、この信じられないような逸脱を明らかにするためにあなたがとっている行為に深く感謝をします。

敬具

イグナシオ・チャペラ

「殺菌性避妊薬としての抗菌ペプチド：コンドームのための予言 ミニレビュー」  
(訳者：以下は概要のみ)

概要：性行為によって感染する病原菌やエイズの防止に、抗菌ペプチド（ディフェンシン、プロテグリン、カテリシジン、セクロピン、ポリフェムシン、マガイニン、メリッチン）が有効であることが明らかになっているが、避妊効果も確認されている。